

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド

東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は106円台を中心に上値の重い展開か

[5月11日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月4日～5月8日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	106.95	107.07(4)	105.99(6)	106.35	-0.56
ユーロ・ドル	1.0981	1.0986(4)	1.0767(7)	1.0844	-0.0137
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	20,179.09	+559.74	日本10年債利回り	-0.001	+0.017
ダウ平均株価	23,875.89	+152.20	米10年債利回り	0.641	+0.029
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 12日 中国4月消費者物価指数、中国4月生産者物価指数  
日本3月景気動向指数速報値  
米4月消費者物価指数  
米4月財政収支
- 13日 日本3月経常収支  
NZ準備銀行(RBNZ)政策金利  
英3月鉱工業生産指数、英3月製造業生産指数、英3月貿易収支  
英第1四半期国内総生産(GDP)速報値  
ユーロ圏3月鉱工業生産指数  
米MBA住宅ローン申請件数  
米4月生産者物価指数
- 14日 豪4月雇用統計  
独4月消費者物価指数確報値  
スイス4月生産者・輸入価格  
カナダ3月製造業出荷  
米新規失業保険申請件数、米4月輸入価格指数
- 15日 中国4月鉱工業生産指数、中国4月小売売上高  
独第1四半期国内総生産(GDP)速報値  
ユーロ圏3月貿易収支  
ユーロ圏第1四半期国内総生産(GDP)改定値  
米4月小売売上高、米5月NY連銀製造業景気指数  
米4月鉱工業生産・設備稼働率  
米5月シガン大学消費者信頼感指数  
米3月対米証券投資

【前回のレビュー】ドル円は4月中旬の108円台前半から軟化した後、106円台前半で下げ渋っている。108円台では上値は重そうだが、105円を割り込むほどの円高にもなりにくいとみられる。このため、目先は106～107円台を中心とするレンジ相場が見込まれるとした。

【米国では7週間で3300万件超の失業増】

6日に発表された4月の米ADP雇用統計では、雇用者数が前月比2023万人減となり、記録的な減少となった。米中対立再燃への警戒感も加わり、6日のNYダウは218ドル安となった。

7日に発表された米新規失業保険申請件数は316.9万件増となり、事前予想の3

00万件増を上回った。過去7週間の合計では3340万件超となる。失業者数の急増は今後の景気や消費の重石となる。一方で欧米では一部で経済活動再開への動きが出てきている。また、米中貿易協議の責任者が来週にも電話会談を行うとの報道から、米国株は上昇に転じている。

4月28～29日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）後の記者会見で、パウエル議長は「4～6月期の経済活動は前例のない落ち込みなる」「雇用が正常に戻るにはしばらくかかる」との見解を示しており、米国の雇用情勢の悪化はしばらく継続して、回復するにはまだかなり時間を要するとみられる。

ドル円は6日の海外市場で一時105.99円まで下落した後は下げ渋りを見せた。欧州中央銀行（ECB）による金融政策への不透明感からユーロ円が売られたことなどがドル円の重石となった。5日にドイツ憲法裁判所がECBの緩和策に関して一部違憲であるとの見解を示したことで、ECBによる金融政策の不透明感が高まったことがユーロ売りにつながった。

7日の海外市場ではユーロ売りの流れは一服しており、ユーロドルもユーロ円も上昇に転じている。この日は米株高などもあり、ドル円は106円近辺から106.60円台まで戻りを見せた。ただ、戻りの動きは限定的となっている。

今後の注目ポイントは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、米国を中心に景気の悪化がどの程度進行しているのかという点となりそう。米経済指標の悪化が株安やドル安につながりそうだ。経済活動再開の兆しは明るい材料ではあるものの、予断を許さない状況に変わりはない。いったん落ち着きを見せたものの、米中对立への警戒感もくすぶり続け、ドル円は106円台を中心に上値の重い展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、105.00～108.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、12日に日本3月景気動向指数速報値、米4月消費者物価指数、米4月財政収支、13日に日本3月経常収支、米MBA住宅ローン申請件数、米4月生産者物価指数、14日に米新規失業保険申請件数、米4月輸入価格指数、15日に米4月小売売上高、米5月NY連銀製造業景気指数、米4月鉱工業生産・設備稼働率、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数、米3月対米証券投資などがある。

#### 【ユーロドルはレンジ相場か】

4月30日に開催された欧州中央銀行（ECB）理事会で、パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の規模拡大などが見送られたこともあり、ユーロドルは上昇基調で推移していたものの、上昇の流れは続かなかった。

5日にドイツ憲法裁判所がECBの緩和策に関して一部違憲であるとの見解を示したことがユーロの圧迫要因となっている。1日にユーロドルは1.1000ドルの節目を上抜いたものの、維持できずにすぐに下げに転じた。ユーロドルは7日には1.0800ドルを割り込んでいる。ユーロ円は114.43円前後まで下落して約3年半ぶりのユーロ安円高の水準となった。

もっともユーロドルもユーロ円も直近の安値圏からは下げ渋りを見せている。過去1か月程度の期間で見ると、ユーロドルは1.07台から1.10ドル台のレンジでの推移となっている。明確なトレンドを描きにくい中、ユーロドルはレンジ相場が続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0650～1.1050ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、12日に中国4月消費者物価指数、中国4月生産者物価指数、13日にNZ準備銀行（RBNZ）政策金利、英3月鉱工業生産指数、英3月製造業生産指数、英3月貿易収支、英第1四半期国内総生産（GDP）速報値、ユーロ圏3月鉱工業生産指数、14日に豪4月雇用統計、独4月消費者物価指数確報値、スイス4月生産者・輸入価格、カナダ3月製造業出荷、15日に中国4月鉱工業生産指数、中国4月小売売上高、独第1四半期国内総生産（GDP）速報値、ユーロ圏3月貿易収支、ユーロ圏第1四半期国内総生産（GDP）改定値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。